

その始まりは平成19年・7月13日同級生8名と北海道礼文、利尻島への3泊4日での旅の途中のトワイライト車中のことでした。気分が悪くなりどこで降りようかと思った位でしたが、どうにか気分も落ち着いて何とか旅を続けることが出来ました。が食欲が余りなくて美味しいものもたべられませんでした。その年の4月頃から左首筋に少し腫れがありました。けれど何の痛みもなく横着にも7月までお医者様にも行かずにご過ごしてきました。この頃には大分目立つようになってまして、みんなから帰ったら早速お医者様に行くように言われ早々に耳鼻科へ行きましたら、たくさんリンパが腫れていて直ぐにでも大きな病院へ行くようにとのことでした。それからというもの検査、検査の毎日でした。検査結果の日、私は娘と二人先生の前に居りました。先生は今は国民の二人にひとりがガンになりますと言われました。そして私のガンは首に4cmの腫瘍とお腹にもひとつありました。けれど幸いにも骨髄には達して居らず、先生は絶対に治りますよっと力強く励まして下さいました。私は「ハイ、頑張ります」と答えたものです。私のガンは、ゆっくりと出てくるおとなしいガンだそうです。しかし一度かかってしまえば、又いつかはという思いがありました。主治医の先生と初めてお会いした時からこの先生に最後までついて行こう、そうして病気と先生の優等生になろうと心に決めました。

8月22日入院。翌日より治療が始まりました。私の治療は R-CHOP 療法と言って、初日にリツキサンという分子標的薬を点滴し、その翌々日に抗がん剤の点滴を受ける方法でした。リツキサンとはミサイルの様に直接ガンのある所に飛んで行き、ガンを退治する方法です。それを6セットする事になりました。リツキサンは(3時間30分)割合体に合ったようです。抗がん剤は(5時間位)さすがにこたえました。副作用で嘔吐、体がだるく、痛く、味覚は何を食べてもローソクかゴムのような味で勿論食欲はなく、便秘に悩まされました。抗がん剤を受けた後は、早く体内から出してしまおうのが良いので困ってしまいました。三週間後二度目の抗がん剤を終えた所で退院となりました。後の四セットは外来で受けるのです。入院の時に髪の毛は全部抜けてしまい、帰ってからは、帽子、マスクの生活が始まりました。味はわからなく、生ものため、動物は勿論植物も触ってはいけないう日々でした。この頃から身体のだるさに加えて、手指先のしびれが始まり、足の裏にもしびれが出るようになって来ました。手の指先はそれはそれはもう針で刺されているような痛さで、買い物に行っても小銭が上手くつかめない状態でした。今も腫瘍があった左側の手の指先はまだ少ししびれが残っており、足の裏はいつもお豆さんを踏んでいるような感じがしています。三回目の抗がん剤になり、いつも真っ赤な液体が身体に入って行くのをにらみつけていました。けれどこの薬が私のがんをやっ

つけてくれていると思ひ直し、これからは仲良しになって受け入れるようにしようと思ったものです。いつものように体もだるく、眠れなくて一晩中居間のソファで座ったままの日も幾日もありました。けれど我慢我慢で早く治りたい一心でした。ホルモン療法もあったので下腹のはりに加え、頭、のど、舌、あご、歯茎、全身のこり、胃の痛み、足のだるさ、むくみ全部ありました。4回目の抗がん剤、外来の診察室でいつもの様に看護師さんに「頑張るわ」って言いますといいよって優しく言ってくださり、本当に良くしていただき頭の下がる思いでした。又点滴にも耐えることが出来ました。

12月7日、いよいよ最終の抗がん剤も無事に終わりました。主治医の先生から「やっと終わりましたネ」って労いのお言葉をいただき、とても嬉しくホッと致しました。それからがまたまた大変な苦難でした。貧血に悩まされ輸血もしました。歩くのさえしんどくて買い物カゴさえ持つのもつらく、掃除機もひざをついての作業でした。

それから8ヶ月振りに生もの解禁と言われたときは、海鮮物の大好物な私は「バンザイ」とさげんだ位でした。うれしかったです。その後何回かCTも撮り、血液検査の結果も幸いにして順調です。

3年と8ヶ月が経ちました。今現在も手の指先、足の指先のシビレが残っていますし、一日おきに抗がん剤も服用していますので、口内炎、味覚も月の内半分位は完全ではありません。けれど毎日生かされていることに感謝感謝の日々を送っています。病気前の自分の体にはなかなか戻れませんが、ガンをやっつけようと日々頑張っています。つい先日72歳の誕生日を迎える事が出来ました。私のようなおばあちゃんでも、“まだまだって前を向いて程ほどに頑張っていくよ。”って自分に言い聞かせて居ります。みなさまもどうか早く治られますように心より願い祈って居ります。

川 柳



しょうがない がん闘病を 糧にしよう

傷跡は 乗り越えた証 胸を張り

通院も なぜか楽しい 母と二人

無理しない がんばりすぎない 深呼吸

再建を したいけれども 傷はやだ